

平成29年度第4回沼田市市民構想会議（会議概要〈抜粋〉）

- 1 日 時 平成29年10月19日（火）午後2時から午後4時10分
2 場 所 沼田市中心公民館 第一講義室
3 出席者 委員14名（欠席11名）
アドバイザー 篠田 暢之氏
沼田市 副市長、市民部長、健康福祉部長、経済部長、
都市建設部長、教育部長、管財係長
（事務局：企画課長、企画係長、企画課主事）

4 会議内容

- (1) 開 会
(2) 会長あいさつ
(3) 前回の会議結果について
(4) 議題
1) 『沼田市公共施設等総合管理計画』の推進に係る意見（案）について
2) 『共創と協働によるまちづくり』に係る提言（市政への反映状況）について
3) 地方創生加速化交付金の効果検証について
4) 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
5) その他
(5) 閉 会

***** <略> *****

4) 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

<会 長>

次の「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」を議題とさせていただきますので事務局から説明願いたい。

<事 務 局>

*** 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(進行管理)について説明 ***

<会 長>

目標が1から4まであって、その目標ごとに施策が分かれているが、まず目標1についてご意見をお聞かせいただきたい。

<委 員>

全体に共通することだがK P Iが分かり難い。

例えば2頁の地域事業者での新規雇用者数のK P Iが1, 800人になっている

が、これは平成31年度末までに1,800人になれば良いということなのか。

<経済部長>

目標値については平成31年度末までの達成目標になります。

また、ご質問は平成27年度時点で既に31年度末の目標値を達成しているのではないかということだと思いますが、これは就業者数の減少度合い等を見ている中で平成28年度が1,555人と減少していますがそういったものを推計していつて平成31年度までに1,800人を目標値としましょうということだと思います。

<委員>

1,800人というのは新規の話か。

<経済部長>

新規です。

<委員>

平成27年度で新規の方が1,915人、平成28年度で1,555人いてこれを更新していくと毎年積み上がっていくのか。

<経済部長>

新規就労者ですから年度ごとの人数になります。

KPI自体は31年度までの達成目標というのは大筋の達成目標でありますので全体で31年度1,800人を目指すということになっていますが、先ほど申し上げましたとおり、総体的には人口減少で子どもの数が減っている状況でありますので、新規就労者数も子どもの数に比例して減らざるを得なくなってきましたから、現状が高くて、1,800人という目標が多いのか少ないのか、27年度には1,800人を達成しているわけですから、4年後に1,800人が低い数値なのかということもありますが、ここ自体は当然努力を目標に含めてですが外部から入ってくる人間よりは、今いる子供たちをここで雇用するということが大前提になりますので1,800人で目標を設定させていただいているということでございます。

<委員>

全体的にKPIの表示が分かり難くて、次の地域産業情報のメディア掲載数24回は平成31年度までに24回を目指すということか。

<経済部長>

24回まで底上げをしていきたいということです。

<委員>

3頁の林業、木材・木製品製造業者での新規雇用者数が100人となっているが、平成26年度から平成28年度までは0人ということになるのか。

<経済部長>

0人ということになります。

<委 員>

取り組みの効果が全くなかったということか。

そうなると取組内容自体が問われることになるのではないか。

<経済部長>

これも林業関係の募集状況、募集が無ければ採用もないという状況になってしまいますから、このK P Iが本当に達成できるのかということについては疑問が残ると思います。

<委 員>

新規雇用年齢が多いのは18歳か。

<経済部長>

沼田市の全体的な就労環境からいうと18歳がピークになります。また、大学を卒業される方、つまり22歳以降でこちらに来られる方が次のピークになりますが数字としては減少しますし、やはり皆さんからご指摘いただいているように就職先がないと。次のピークが30歳前後で、これは家庭をお持ちになって地元に戻られる方が多いだろうと分析していますが、そういった形になります。

<委 員>

林業関係というのは全く興味がなかったということか。

<経済部長>

興味がなかったというよりも、雇用する側の問題点もあると思います。

<委 員>

何とかしてあげようというのが取り組みなので、やはり取り組み内容を考えないと、このまま0人が続くばかりで、急に100人ということはありませんことだと思ふ。

<経済部長>

K P Iの設定自体が正しかったのかどうかという検証はしなければならないと思いますし、新たな雇用創出という意味ではC L T工場の誘致ですとか設置ですとかそういうものに向けては商工会議所の中でも協議をさせていただいている段階です。

<委 員>

7頁の新規就農者の確保育成のところ、「農業後継者・新規就農者の増加」のK P Iが年間10人となっていて、実績として平成26年度は5人、平成27年度は3人、平成28年度は7人となっていて、下の平成28年度の取り組み内容のところでは継続給付3名でそれぞれ150万円を支出しているということになっているが、これを見ると平成26年度から平成28年度までの新規就農者が15人いる中

で3名だけに補助金が交付されているということは12人が辞めたということか。

<経済部長>

補助制度を活用して新規就農される方もいますし、例えば二代目として入られて新規就農される方もいらっしゃいますので、その方は補助金の対象にならないほか、補助金には年齢制限もありますので、若い方であれば補助金を受けられますけども、一定年齢以上の方は補助金を受けられないという区別もありますので、全ての方が補助金を受けているわけではないというご理解をお願いします。

<委員>

新規就農者はすぐに離農してしまう方も多いので、それを踏まえないで目標を設定しても、意図していることと乖離してしまうことになるので、こうした目標設定は如何なものかと考えるがどうか。

<経済部長>

ご意見いただきました部分については十分に検討させていただきましたが、ひとつは技術的な問題として、新規就農者数をカウントすることは比較的容易ですが、最終的に離農していく人のことを考えて全体数が減少していくというKPIの取り方が難しいということがあって、これくらいは確保しましょうというKPIを設定させていただきました。

もうひとつは農家の専門化が進んでいますので、専門農家の数ではどうかという検討もさせていただきましたが、一般的に言うと新規就農の方をどれだけ確保できるのかということが、地域の魅力付けだとか就農意欲に関係するだろうということで、できるだけ多くの方に就農していただけるような環境づくりが大事であるということでKPIはこのような設定をさせていただきました。

<委員>

しかし農林水産省のデータを見ても、必ず新規就農者と離農者、そしてどうなっているのかというデータを出しているのです、そうすべきだと考えている。

<経済部長>

データの把握しているのです、全体の農家人口、特に専門農家が一番問題になると思いますから、その部分について全く検討していいということではないですが、このような形で出させていただいたということでございます。

<会長>

他にご意見があればお願いしたい。

<委員>

進行管理の意図が分からないのもう一度説明願いたい。

<事務局>

先ほどもご説明申し上げましたが、総合戦略は5か年の計画でございます。
それぞれ設定させていただいた目標値に対して、昨年度までの進捗状況の実績値と
取組内容を更新させていただきましたので、4つの基本目標に対して取り組みが適
正であるのか、見直しの必要性の有無などについてご意見をいただきたいというも
のでございます。

<委員>

こうした取り組みをしたらもっと良くなるなどの意見は別の話になるのか。

<事務局>

そうしたご意見も含めてお聞かせいただきたいということでございまして、見直
しによって、より効果が得られるということについてもご意見をいただいて、それ
ぞれの担当部署で見直しを行うこととなります。

<会長>

他にご意見がなければお約束の時間もあるので、本日はここまでとして、残りは
次回の検討としたいがよろしいか。

ご異議がないようなので、次回も引き続きの検討とさせていただくのでよろしく
お願いしたい。

それでは、以上で第4回市民構想会議を閉じさせていただく。

***** <略> *****